

【3 通学方法・通学手段】

市教委の考え方・方向性

番号	小・中	質問や課題
問26	小 中	通学への支援・スクールバスの運行は？
問27	小 中	公共バス利用の検討はないか？
問28	小 中	地元で徒歩通学ができる安心感があるのだが。
問29	中	送迎による苦情があるのでは？
問30	中	親送迎の負担、緊急時の送迎 ☆遠距離から通っている生徒が体調を崩して早退した場合、どうするのか。
問31	中	下校時の不安

○統合校の通学範囲が市内の他校と比べて決して広いわけではなく、スクールバス運行はできないものと考えます。これまでの学校統合において、国の補助金（通学距離が小学校4km、中学校6km以上が基準）を活用しており、御理解願います。体力向上の面から、徒歩あるいは自転車による通学を奨励いたします。安全の確保については、通学時の避難訓練や緊急避難場所の確認を実施します。また、安全点検等の状況によって通学路の改善を働きかけ、市民への見守り等をお願いしてまいります。

○徒歩通学、自転車通学を、生徒の体力向上の面からも推奨します。統合準備期間に、許可する距離やヘルメット着用、自転車保険の加入、自転車点検などのルールを検討します。なお、公共バス利用について、現状の通学費補助基準は、無料と考えていますが、他校との平等性を考え、距離要件等を検討してまいります。

○公共バスの利用については、運行ルートの一部を変更して、市内循環バスの利用も検討してまいります。運賃については、無料と考えると思いますが、家庭の迎えを基本といたしますが、統合校で可能な配慮を行ってまいります。

○緊急時の送迎につきましては、家庭の迎えを基本といたしますが、統合校で可能な配慮を行ってまいります。

○体調を崩した児童生徒がいればすぐに保護者に連絡し、迎えに来ていただくまで学校でお預かりしています。無理して歩いて帰宅させるようなことはどの学校もしていません。子供たちの安全は学校として配慮してまいります。

○生徒には防犯に係る安全指導をしっかりと行います。毎年実施している学校と関係機関による通学路点検等を基に、より安全な通学路を設定いたします。また、学校や市教育委員会による点検を定期的にを行い、必要に応じてその都度改善してまいります。SOSの家、防犯協会やPTA等と連携して生徒の安全確保に努めるとともに、生徒の防犯を含めた安全に係る情報をママチャリメーモール等を介して学区内全ての学校で共有できるよう引き続き努力してまいります。

問32	中	市内循環バスのルートは？ 2ルートにできないか。	<p>○田中ルート・九条ルートの2ルートの2ルートについては、生徒の希望や居住地などを精査して検討します。ただし、市内循環バスのみでの対応は難しいので、路線バスの活用も検討してまいります。</p> <p>○バスに乗る距離については、徒歩・自転車・市内循環バス利用から保護者が選択すること、公共の交通機関であることから線引きは設けません。通学補助の対象生徒については線引きの検討が必要と考えます。</p> <p>○バスには、一般の人が乗ることを考慮しても、例えばバスのサイズなど最大数が乗れるという確約が必要です。夏場は徒歩や自転車、冬場はバスを利用することもあります。そこで、主にバスを利用する生徒・御家庭の希望を精査し検討します。</p> <p>○本年8月に策定した「第2次市総合交通計画」では、市街地の移動を市内循環バスに集約化することとしており、運行経路の拡大を検討しています。併せて、集約化によりバスのサイズは、現行のバスサイズより大型化することを検討しています。</p> <p>○始発となる第2グラウンドから気仙沼中学校までは約25～26分で運行が可能ですが、他の統合校のスクールバスの運行時間も20分から30分の運行です。料金については、他とのバランスを考えて一定の距離要件を決め、無料にしたいと考えています。</p> <p>○様々な通学方法を検証することは、新計画による統合校の通学モデルになると考えています。</p>
問33	中	市内循環バスについては、ルートや時間などが決まったものを見せてもらってから、それを協議する順番でよいか。 最初に通学手段を提示して、保護者が納得した上で準備段階に入っていないか。 ☆通学時間が長くなることは、生徒間の不公平さにもつながる。不公平さを解消する案がないまま進めるのはどうか。	<p>○通学については、その安全確保も含め、ご家庭にお願いすることになっております。一人一人状況が異なると思いますが、市内循環バスの活用等、可能なところで対応いたします。</p>
問34	中	生徒や家庭の事情により徒歩や自転車で通学が困難な場合、どうすればよいのか？	<p>○徒歩の他、市内循環バスや自転車等の通学方法を生徒自身が選択することで、できるかぎり負担とならないようにします。環境の変化については適応できるように丁寧に指導してまいります。</p>
問35	小 中	通学の負担が学力低下をきたす。	
問36	中	徒歩通学だけ？自転車通学は？	<p>○自転車通学・市内循環バス利用・徒歩通学から、生徒・保護者が選択することとします。</p> <p>○自転車通学については、通学距離にかかわらず可能としたいと考えています。申請・許可などについては統合準備会で検討します。</p>
問37	中	駐輪場を学校敷地内に設置できないか	<p>○学校敷地内への駐輪場の設置は可能です。</p>
問38	中	冬季間の自転車通学は危険ではないか。	<p>○自転車通学の場合は、ヘルメットの着用・保険の加入をお願いいたします。</p> <p>○雨天時、積雪時、路面凍結時の自転車通学は避けるように指導いたします。</p> <p>○生徒への安全指導を徹底するとともに、広報等を活用して地区住民にも周知してまいります。</p>

問39	中	通学方法についての学校からの提示は？	<p>○九条小学区からの通学路は、地区毎に設定します。例えば、九条や田谷地区などは本町橋経由、南郷や神山地区などは大橋経由などを想定しています。また、生徒には、道路状況だけでなく、通学中に災害が発生した際のルートや緊急避難場所の周知も含め、安全・安心な通学ルートを設定していきます。現在の条南中学校の通学においても、災害発生時の避難ルート等を生徒に指導しています。</p> <p>○本町橋方面から通学する児童生徒が通学路として使用している市道本町川口町線については、維持補修により通学しやすい環境整備に努めています。</p> <p>○市道川の上線は、気仙沼小学校・中学校の通学路となっており、児童生徒が登下校に利用しています。防犯灯も6基整備されていますが、階段付近が若干暗いため、1基の防犯灯増設を検討してまいります。冬季間は、安全確保のため車両通行止めとなっています。</p> <p>○気仙沼大橋方面から通学する児童生徒が通学路として使用している市道幸町南ヶ丘線については、歩道が整備されています。今後も生徒が安全に通学できる環境を整備してまいります。</p>
問40	中	ざわざわや追越坂の通学路整備，照明灯や防犯灯の整備も必要ではないか。	

【4 環境整備】

小・中		質問や課題	市教委の考え方・方向性
問41	小 中	校名は？	○統合の合意形成後に組織する統合準備会で検討します。
問42	小 中	制服，運動着，鞆は変わるか？移行の方法は？	<p>○統合の合意形成後に組織する統合準備会で検討します。</p> <p>○統合するそれぞれの学校から統合準備委員を選出し、約1年間をかけて円滑な統合に向けて話し合いを実施します。校名・校歌・校章，制服や運動着，教材・教員などについても話し合い，相手の立場を尊重しながら対等な立場で話し合いが行われています。</p>

問43	中	駐車場と気仙沼中学校周辺の道路整備は？	<p>○駐車場については、職員用及び来客用としては現在のスペースで十分と考えております。学校行事等で保護者が一斉に来校する場合は、基本的に校庭利用となります。但し、運動会等の場合は、近接している市民会館や小学校等の公共施設の駐車場の利用を考えています。</p> <p>○周辺の道路整備については、本町側の市道本町川口町線の改良工事が完了しました。南気仙沼地区から市民会館へ抜ける市道幸町南ヶ丘線も拡幅されました。震災前と比較して歩道も整備され、安全性は確保されていると考えます。また、毎年度実施している通学路の合同点検等によって新たな危険箇所等が確認された場合には、警察や道路管理者等と協議して改善を図ってまいります。</p>
問44	中	校舎等の改修予定は？	<p>○校舎等は、東校舎（S60建築）、西校舎（S36建築）、体育館（S34建築）となっており、令和4年度以降、いつ統合しても東校舎で教室数は確保できます。体育館については、市内小中学校で最も古い建物でありますが、構造上一番頑丈なRC建築で、耐震基準も満たしています。</p> <p>○現在進めている統合第3段階の進捗等を見据えたうえで、体育館の新築若しくは大規模な改修等を検討していきたいと考えています。</p> <p>○西校舎については、体育館の新築等の計画に合わせて、解体も想定する必要があると捉えています。</p> <p>○新築や大規模改修は国の補助金を活用します。新統合計画の道筋が見えた段階で、着手していくこととなります。なおその間、生徒の安全・安心な教育環境の維持に努めてまいります。</p>
問45	中	気仙沼中学校の体育館等の改修計画を立てて、その後統合した方が良いのではないか。	
問46	中	☆校舎改修など工事期間の子供たちの生活はどうなるのか。	<p>○工事は夏休みなど長期の休みに行っています。夏休みだけでは終わらない場合は、土日や日中に可能な工程を組みながら工土して行っています。</p>
問47	小中	跡施設利活用検討と統合準備会を並行して実施してほしい。跡施設の十分な吟味を。	<p>○条南中学校の立地は、平場で敷地も一定程度確保でき、多様な活用を見込むことができます。</p> <p>○これまで跡施設の利活用については、閉校関連事業や統合先への備品等の移動が完了してから検討を進めてきました。保護者や地区の皆様の要望があれば、統合準備会と並行しながら検討を進めていきたいと考えます。また、活用に当たっては、地区の意向などに十分配慮しながら、より良い利活用となるよう地域の皆様の御意見をいただきながら、気仙沼市フアァシリテイマァネジメェンツ委員会と検討してまいります。</p>

【5 安全確保】

市教委の考え方・方向性

質問や課題		
小・中		
問48	災害時の通学路が危険（川沿い）	<p>○通学時において、川沿い等災害時に危険が予測される箇所については、平時から、災害後の代替通学路の指導を徹底します。また、通学時間帯に津波注意報等が発令された場合には、学校が指定する緊急避難場所に避難することを指導するとともに、避難マニュアルに示して周知するようになっています。</p> <p>○悪条件下における津波浸水想定（令和4年5月10日県発表）の対応としては、「避難」を軸とした津波防災対策を再点検し、危機管理マニュアルの見直しを図っているところですが、また、標高、距離、所要時間を観点に避難場所の見直しを行っています。条南中学校では、それらの観点を考慮した避難訓練を令和4年6月7日に実施し、検証しています。今後とも検証を重ね、より安全に避難できるようにしていくことが大切だと考えています。</p>
問49	震災経験を生かす安全性の担保は？	
問50	今回の津波浸水想定では、通学路だけを考える と気仙沼の方が危険ではないか。	<p>○県が発表した悪条件下における津波浸水想定では、条南中学校は3～5mの津波浸水区域となっています。また、条南中学校・気仙沼中学校、両校の通学路も津波浸水区域となっている箇所もあります。</p> <p>○通学路の避難場所について、令和4年5月に市教委から、「通学時の避難については、地域の皆様と連携して避難することが重要」「地域の防災等の会議に学校も出席して、地区の皆様と安全な津波避難場所について話し合い、決定する」よう指示しています。</p> <p>○条南中学校も気仙沼中学校も「登下校中の地震対応」マニュアルを作成し、登下校中に大きな地震が発生した場合、その場所によって、高台や津波避難ビル等に避難するように生徒に指導しています。</p>
問51	災害に向けたハード面の対策は？	<p>○現気仙沼中学校の校舎等の耐震性については、校舎・体育館ともに耐震基準を満たしています。また、校舎には太陽光発電設備10kw（蓄電池含む）を備えており、停電時においても、非常用電源（職員室や体育館のトイレ照明、コンセント電源、移動式照明器など）を確保しています。合わせて、井戸を備えており、非常時の水源も確保しています。気仙沼中学校周辺の道路整備及び通学路の点検については問41を参照願います。</p>
問52	条南中学校は、大津波の時危険だから、ここに 中学校を置くべきではないという考えか。	<p>○令和4年5月に県が発表した「津波浸水想定」は、最大クラスの津波（東北地方太平洋沖地震・日本海溝・千島海溝）が最悪条件下（湖望平均満潮位、地震で地盤沈下、津波が防潮流を越えると破壊される）で発生した場合に想定される浸水の区域及び水深を郡道府県知事公表したもので、「避難」を軸とした津波防災対策構築の基礎資料となるものです。建築や立地を制限するという基準ではありません。津波浸水エリア内に避難所は設置できないのではないかとこの考え方を示したものです。現在においても、避難によっても、安全は確保されると考えます。</p>

問53	中	唐桑小学校も津波浸水区域であるが、統合校と なった。なぜ、条南中学校が統合校にならない のか理解ができない。	○問12～20で記載のとおり、現計画は総合的な検討によって作成されています。安全面だけを比較したものではありません。 ○新計画は、検討委員会を立ち上げて検討することになりますが、津波の浸水区域、1000年に一度の雨のハザードマップのどちらにも条南地区が入っているのであれば、そこに子供たちを集めることは難しいという考え方を、市政懇談会において市長が示しております。 ○中井小学校・唐桑小学校については、津波に対する避難ルートを状況ごとに設定し、避難で対応できるものとして、保護者や地区の皆様から御理解をいただいたものです。
問54	中	東日本震災時、息子は条南中学校に通っていた。中学校に水が入った情報があったが、連絡が取れず一晩不安な状態だった。水が入ったところにとっちはどうなのかという思いがある。	○条南中学校では、生徒は体育館で一晩過ごしました。確かに校庭に浸水し、校舎・体育館だけが孤立した状態になったのは事実です。 ○気仙沼中学校では、震災当日迎えに来た保護者もいましたが、保護者にも避難を促し、引き渡さずに、生徒は校舎1階に避難させました。観音寺を通れば、本町・新町にも抜けられました。ほとんどの生徒を震災翌日に保護者に引き渡しました。気仙沼中学校は孤立しておりません。

【6 学校生活】

番号	小・中	質問や課題	市教委の考え方・方向性
問55	小 中	子どものメンタルへの対処は？	○概ね1年間を当てる統合準備期間において、子どもの交流機会や合同授業を早い段階から実施し、子どもたちの統合への不安の払拭に努め、スムーズに統合できるよう準備します。また、統合前の教員等が継続して指導できるように統合校への配置を進めます。さらにスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを重点的に配置します。 ○これまでの統合では、授業や学校行事での交流のほか、部活動での合同練習や生徒会交流など、統合への不安解消のための交流会を計画的に行っていました。そのほかに、小学生による部活動や生徒会活動の見学等、小学校と中学校間の交流も行っていました。また、教員同士が互いの学校の授業を参観したり、授業交換を行ったりする等の教職員間交流も行っています。
問56	中	クラス分けはどうか？	○統合準備期間に対象校を中心として検討することになりますが、一般的には、対象校間の人数バランスに配慮しながら、均等なクラスになるようクラス分けします。
問57	中	☆部活動だが、気仙沼中学校は小学校の校庭を借りている。統合して部員が増えればどうなるか。	○以前陸上の会場になっていたように、他の学校に比べれば広いグラウンドです。のびのびと活動できるようにこれから工夫していきたいと思えます。 ○大川さくら総合公園について、大会前などにはぜひ活用してほしいと思います。学校から通うこともでき、一番利用しやすい地区だと思います。

【7 その他】

市教委の考え方・方向性	
番号	質問や課題
問58	小中 子どもの声を聞いてほしい
問59	小 学校がなくなることによる過疎化等，地域づくりについての考えは？
問60	小中 コロナの中での統合に不安
問61	中 高校の横に，先進的な中高一貫校として設置した方が喜ばれるのではないか。

○学校統合は，子どもたちを第一に考えながら，教育の在り方や将来展望等を多面的・総合的に考えなければなりません。現在就学している子どもだけでもだけの問題でもありません。以上のことから，統合そのものについて子どもたちの声を聞くことは適さないと考えます。就学中の子どもの不安を解消するよう最大限努めることは，言うまでもありません。

○人口減少に関しては，これまで，そして今後も市を挙げて取り組むべきものと認識しています。減少に歯止めをかける対策とともに，減少に積極的に適応する対策の両面が必要だと捉えます。教育は，子どもの健全な成長を図って将来の社会の担い手を育成する営みでありますから，後者の対策として学校統合を捉えています。統合のために，統合校と学区を成す地区との新たな関係の構築を図る必要があるものとして取り組んでまいります。

○本市では，「プロジェクト1.90」に取り組んだり，地域少子化対策重点推進交付金活用事業を行うなど，少子化対策に取り組んでいます。

○しかし，他市町村と同様に少子化に歯止めがかからない状況です。今後も少子化対策については，市長部局と情報を共有しながら，気仙沼市の教育の良さをアピールするなど継続して取り組んで参ります。次年度から市では，給食費を無償化とすることが決定しています。

○令和5年5月9日から，新型コロナウイルス感染症は5類に引き下げられることが，国から発表されておりますが，状況によって必要な新型コロナウイルス感染防止対策を見直しながら，十分に考慮して統合準備を進めます。

○少子化の現状を考えると，新しい学校を設置することは非常に難しいと考えます。

○本市の高校は，私立1校以外は全て県立です。中学校は市立です。中高一貫校を作るためには，新たに市費で高校にあたる部分を作ることが必要になります。

○中高一貫校の維持には，それを支えるかなりの人口が必要で，現時点での本市の人口減少を考えると，中学校段階で中高一貫校に生徒が集中してしまいうデメリットが生じる恐れがあります。